

「地域に広げる防災・減災活動 ～高校生が考える・つくる・動かす～」

兵庫県立山崎高等学校

教諭 多々良 恵

1 はじめに＜背景＞

兵庫県立山崎高等学校は、播磨北西部に位置し、鳥取県と岡山県に県境を接する宍粟市の中心部、山崎町に位置している。「しそ森林王国」と言われる自然環境に恵まれた地で、普通科、森林環境科学科、生活創造科の3学科からなる総合制の高等学校である。

宍粟市に隣接する佐用町では、平成21年8月の台風9号による集中豪雨で20名の尊い命が奪われ、家屋損壊は1、700戸以上に及び、被災した本校生徒・職員も多くいた。また、平成23年3月には、東日本大震災が起こったことで、被災地への支援活動をしながら私たちには“何ができるのか”“何をすべきか”を考え始めたのが活動のきっかけとなった。

また、本校は山崎断層の真上に位置しており、昭和59年5月の山崎断層地震をはじめ、大きな地震がいつ発生してもおかしくない状況にある。日頃から防災意識を高め、地域を私たちの手で守る姿勢と力を身につける必要がある。そこで、平成24年度から生徒主体の防災体験活動をスタートした。以降毎年内容を充実させながら、活動を継続している。

2 取組内容

東日本大震災後、学校家庭クラブが中心となり被災地の園児に手作りの入学グッズなどを送る活動をしているが、さらに私たちにできる防災・減災活動はないだろうかと模索した。

(1)平成24年度

「1.17 ひょうご安全の日のつどい」に参加し、校内でも非常食の実習や炊き出しの練習をし、生活創造科の生徒がカレー700食を作って全校生と地域の方に配布する第1回炊き出し訓練を実施した。

(2)平成25年度

「生徒が企画する」防災炊き出し訓練を開始した。初年度は、避難訓練、炊き出し訓練（包装食の実演・実習他）、避難所設営訓練を地域の方々を招待して実施した。

(3)平成26年度

「1.17 ひょうご安全の日のつどい」で教えていただいたポリ袋炊飯（写真1）を炊き出し訓練に取り入れ、避難所作り訓練のほか、生徒が指導役になっての応急処置体験、消火訓練（消火器・消火栓）、心肺蘇生法訓練を実施した。

(4)平成27年度

「食から防災を考える」というテーマで、防災食についての講演会・実習会を行った。



▲ 写真1 ポリ袋炊飯

また、地元自治会の要望に応え、兵庫県立大学と連携して災害時要援護者リストの作成に取り組んだ。生徒が地域の高齢者宅を一軒一軒訪問し、交流を重ねながら聞き取り調査をし、まとめ上げた。生徒が企画する体験活動は一層充実したものとなり、非常時の栄養補給に配慮した炊き出し訓練や、地域の高齢者を避難誘導する訓練（写真2）も行った。また、森林環境科学科がある特長を生かし、生徒が指導役として薪割り体験や担架作りなどを実施した。その後、地域の方を招待して防災活動についての報告会と地域交流会を開催した。



▲ 写真2 高齢者の避難誘導訓練

(5)平成 28 年度

地域防災には日頃の「つながり」が肝要との思いから、地域のふれあいサロンと連携した交流会（写真3）を開催し、その中で非常食α米の調理実演・試食会をした。また、地域防災マップ作成に向けての地域調査を行った。自治会内の危険箇所を歩いて調べ、高齢者宅を訪問調査した。防災士による地域防災マップ作成講座を開催し、地域の方々と協力しながらマップの作成を行った。編集作業を経て完成した地域防災マップは、自治会内の全戸に配布した。生徒企画の防災体験活動では、避難誘導訓練（高齢者の避難誘導、段ボールを使ったベッド・椅子づくり、新聞スリッパ・応急マスク作成、防災マップ説明、防災クイズ他）、防災炊き出し訓練（ポリ袋炊飯、豚汁炊き出し、高速道路横断幕を再利用した担架作り、非常食の試食、丸太ストーブ実演他）、防災体験訓練（煙体験、消火体験、負傷者搬送他）を実施した。また、子どもが避難時に背負えるリュックを手作りし、必要な物品を詰めて地域の商業施設で開催した学校のイベントでの販売も行った。



▲ 写真3 地元自治会との交流会での発表

ボールを使ったベッド・椅子づくり、新聞スリッパ・応急マスク作成、防災マップ説明、防災クイズ他）、防災炊き出し訓練（ポリ袋炊飯、豚汁炊き出し、高速道路横断幕を再利用した担架作り、非常食の試食、丸太ストーブ実演他）、防災体験訓練（煙体験、消火体験、負傷者搬送他）を実施した。また、子どもが避難時に背負えるリュックを手作りし、必要な物品を詰めて地域の商業施設で開催した学校のイベントでの販売も行った。

(6)平成 29 年度

自衛隊による防災についての講習会を実施

し、避難所運営のあり方や被災時の高校生の役割などについて、レクチャーを受けた。生徒企画の防災体験活動では、本校同窓会館を避難所に見立て、クラスを自治会と見なして地域の方々と共同で避難所運営体験を行った。防災炊き出し訓練では、空き缶と牛乳パック燃料でご飯を炊くサバイバル飯炊き（写真4）、乾物やかんばん等の保存食を使った料理など、非常食に関する体験学習を実施した。



▲ 写真4 サバイバル飯炊き



▲ 写真5 三角巾で応急処置

また、消防署の協力を得て、煙体験・搬送法・応急処置訓練（写真5）・ロープ結束などの体験学習も行った。そして、防災学習をまとめた「防災ガイドブック」を作成し、自治会全戸に配布した。地域のふれあいサロンと連携した交流会も催し、その中で地域の防災意識の向上を目指して防災についての発表や非常食の実演試食会を行った。

(7)平成 30 年度

「食」にテーマを絞って防災・減災を学習するとともに、地域の商業施設で開催した学校のイベント「山高街の駅」で防災ワークショップを実施した。市販されている様々な非常食を展示するとともに試食会を開催し、防災意識のアンケート調査も行った。また、市内の食品メーカーが製造している防災麺の改良プロジェクトに参加し、高校生の視点から意見を出した。9月以降、非常食についての研究をしながら、12月に行う防災体験活動に向けて企画・準備を進めるとともに、全校での取組に進化させ、森林環境科学科1年生の生徒による木造仮設住宅建設訓練を加えて、総合防災訓練に発展させた。

▼平成 30 年度の活動

4月	生徒防災リーダー（統括・学年担当）決定
5月25日(金)	防災麺についての協議・提案事項のまとめ
5月26日(土)	防災ワークショップの実施
夏季休業中	非常時の食事についての調べ学習、非常食のレシピ作成
9月14日(金)～	防災体験活動の意義・目的について学習・防災体験活動の企画開始
9月21日(金)	ポリ袋調理実習、評価会
9月28日(金)	宍粟防災センター見学（消火訓練・免震装置の見学・講話・ビデオ視聴・非常食体験）
10月5日(金)～	防災体験活動プログラムについての企画・実施要項作成
10月20日(土)	ひょうご産業教育フェアにて防災麺の試食配布・活動内容展示
11月2日(金)～	防災体験活動に向けての準備
12月14日(金)	山崎高校防災体験活動実施
1月9日(水)	非常食実習（ポリ袋調理）
1月13日(日)	平成30年度1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」大賞表彰式・発表会
1月16日(水)	非常食実習（乾パンを使った調理）
1月23日(水)～	非常食ガイドブック作成に向けての学習
2月2日(土)	防災ワークショップの実施
3月8日(金)～	非常食ガイド用調理実習・協議、まとめ
3月	加生自治会へ非常食ガイド配布

3 成果

生徒手作りの防災体験活動を継続することで、年々生徒の意識が向上しており、活動の中身も充実してきている。そして、地元自治会との「つながり」も自然な形で強化できている。

また、生徒が地域の方々と共に、災害時要援護者リストや防災マップ作成を行ったことで、地域住民の防災意識が向上し、今年度の自治会館耐震工事のきっかけとなった。

防災・減災について体験活動を通して学び得たことを、防災ワークショップ（写真6）という形で、地域の商業施設等を利用して発信することで、生徒自身が災害を自分のこととして考えられるようになり、地域住民の意識も高めることができていると実感している。



▲ 写真6 防災ワークショップ

4 終わりに

本校の取組のポイントは、次の5点である。

(1)「地域との連携」

平成24年度のスタート時から自治会と連携し、高校生として地域にいかに関与するか、という視点で活動を行っている。

(2)「多様性」

市の消防防災課、消防署、防災センター、社会福祉協議会にもご協力いただき、大学や地域の商業施設、食品メーカーとも連携して活動している。

(3)「独自性」

専門学科の特色を活かし、栄養摂取に配慮した炊き出しメニューの考案、調理、全校生や地域の方々への非常食実習の指導を生徒が行っている。

(4)「生徒の主体性」

生活創造科2年生が中心となり、全体を掌握する統括リーダー、各学年の体験活動を取り仕切る学年リーダー、学年担当スタッフ（2年生）、補助スタッフ（1年生）という生徒組織により、各自が高い意識と責任をもって主体的に活動を作り上げている。

(5)「活動の継続性」

学校設定科目「地域の生活文化」として取り組むため、継続した活動ができている。

いつ、どこで発生するかわからない自然災害に対して、生徒自身が企画・運営し、反省を踏まえて進化させていく過程で、「経験」ということが、いつか、どこかで役に立つと考えつつ、今後も防災教育を継続・発展させていきたい。

<受賞歴>

- 平成28年度1.17 防災未来賞「ぼうさい甲子園」 優秀賞（平成29年1月）
- 平成29年度1.17 防災未来賞「ぼうさい甲子園」 ぼうさい大賞（平成30年1月）
- 平成30年度1.17 防災未来賞「ぼうさい甲子園」 ぼうさい大賞（平成31年1月）